

# VOICES from the ARCTIC

Vol.28 / 2023.8.10

ArCS II 国際政治課題  
北極域実践コミュニティ事務局



## 米国、ノルウェー北極圏に 外交施設を開設、とブリンケン氏

ロシアのウクライナ侵攻により北極圏国の協力関係が打撃を受けている今、米国はノルウェーの北極圏の町トロムソーに最北の外交施設を開設すると、アントニー・ブリンケン国務長官が木曜日に発表した。氷冠の縮小によって新たなシーレーンが開かれ、未開発の天然資源を求める国々が北極圏に集まってきているため、北極圏は戦略的に重要になってきている。

記事参照：US to open diplomatic station in Arctic Norway, says Blinken - ArcticToday (2023.6.1./Arctic Today)



## 2023年は温暖化が人類に本格的に牙を向けた年として記録される——今、本気度を示すべき日本の役割



地球が本当におかしくなってきた。昨年から続く各地の気温上昇傾向は今年に入り拍車がかかった。暖冬で雪が降らず欧州の湖や川の水位が低下して干ばつに向かい、アジアでは各地で軒並み40度超えを記録した。日本でも春の気温平均が例年を1.6度上回り、6月の段階で真夏日が頻発している。温暖化は気候変動から気候危機へと明らかにフェーズを変えている。2023年は、温暖化が暴力的な力で我々を襲い始めた年として、記録され記憶される年になる可能性が高い。

記事参照：2023年は温暖化が人類に本格的に牙を向けた年として記録される——今、本気度を示すべき日本の役割 | サステナブル・ブランド ジャパン | Sustainable Brands Japan (2023.6.26/SUSTAINABLE BRANDS)

←US Secretary of State Anthony Blinken at a press conference at the National Museum in Oslo after NATO's informal meeting of foreign ministers, in Oslo, Norway June 1, 2023. Stian Lysberg Solum/NTB/via REUTERS/File Photo

## クレムリン、外国船による 北極海航路の早期利用を要請

モスクワが新たなスエズ運河にしたいと考えている北極海航路（NSR）を、外国船籍の船舶が利用できるようにする法案を採択するよう、クレムリンの側近がロシア政府に求めた。NSRはロシアとノルウェーの国境に近いムルマンスクから東に向かい、アラスカに近いベーリング海峡を通る。このルートは物理的に難易度が高いが、モスクワがウクライナに軍隊を派遣することを決定した後、ロシアと西側諸国との貿易が冷戦後の最低水準にある今、ヨーロッパとアジア間の海上輸送時間短縮の可能性がある。

記事参照：Kremlin urges faster action to let foreign vessels use Northern Sea Route - ArcticToday (2023.6.15/Arctic Today)

## “北極海ケーブル”で日欧を つなげ！～背景にはウクライ ナ情勢と気候変動が～



北極海を經由して、日本からヨーロッパまでを新たな光海底ケーブルで結ぶプロジェクト。EUがその調査費用として資金提供を始め、今年4月からルートの調査が始まった。ロシアの影響を回避して大量のデータをより安全で高速にやりとりできるようにするのが狙いで、激動する国際情勢を踏まえての新たな動きとして注目されている。

記事参照：“北極海ケーブル”で日欧をつなげ！ 背景にはウクライナ情勢と気候変動が | NHK (2023.6.1/サイカル)

## WWFがロシアの北極圏開発を 脅かしているとモスクワが 指摘



ロシア政府当局によると、WWF（世界自然保護基金）には、北極圏におけるロシアの産業開発を妨げる政治的意図があるという。検事総長によると、WWFの活動は、ロシアが北極圏の産業開発に従事するのを阻止することを目的としている。同団体は、クレムリンの北極圏最優先プロジェクトである北極海航路の開発を弱体化させるために積極的に活動していると伝えられている。

記事参照：Moscow says WWF threatens Russian development of Arctic - ArcticToday (2023.6.26/Arctic Today)

## ロシア、大使館業務停止でア イスランドとの関係を「破壊 する」と発言

ロシア外務省は土曜日、アイスランドがモスクワでの大使館業務停止を決定したことは、二国間協力を「破壊するものだ」と述べた。アイスランドは金曜日に、両国間の商業的、文化的、政治的関係が「かつてないほど低い」水準にあるため、8月1日から業務を停止すると発表し、レイキャビクでの外交活動を縮小するようロシアに要請したと付け加えた。

記事参照：Russia says Iceland 'destroys' ties by suspending embassy operations - ArcticToday (2023.6.12/Arctic Today)

## ロシア、「条件が整えば」 北極評議会に復帰の可能性： ICCカナダ会長



ウクライナ戦争が終結すれば、ロシアは北極評議会に復帰する可能性がある、とイヌイット極域評議会カナダ議長のリサ・キルキ・コペルカルクは言う。ロシアとの北極評議会の将来像について、「北極圏における平和協力の将来について、多くの疑問が投げかけられている。正式な作業や会議が行われず、ロシアが関与すべきプロジェクトも発表されない。ロシアは北極圏の海岸線の大部分を支配しており、継続的なコミュニケーションは、いつか条件が整えば、ロシアがテーブルに復帰するための重要な平和的手段であることに変わりはない。」と語った。

記事参照：Russia could return to Arctic Council 'when conditions are right': ICC Canada president - ArcticToday (2023.6.15/Arctic Today)

## 日本権益のロシアLNGに 遅れも

ロシア天然ガス大手ノバテクのグラトコフ副社長は15日、日本が権益を持つ北極圏での液化天然ガス（LNG）開発事業「アークティックLNG 2」の生産が今年12月から来年初めに開始されるとの見通しを示した。ロシアのウクライナ侵攻前に予定していた今年中の生産開始が遅れる可能性を示唆した。インタファクス通信などが伝えた。グラトコフ氏は、ロシア・サンクトペテルブルクでの経済フォーラムで事業の現状を説明した。

最終的な投資額は約213億ドル（約3兆円）に上るとの見通しも明らかにした。

アーク2には独立行政法人のエネルジー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）と三井物産が共同で権益を保有している。

記事参照：日本権益のロシアLNGに遅れもアーク2、来年へのずれ示唆 | 全国のニュース | 北國新聞 (hokoku.co.jp) (2023.6.15/北國新聞)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

### 【編集後記】

Vol.28は、2023年6月のニュースを掲載しています。

北極圏国の6月の動向は、ロシアとそれ以外の北極圏7か国との間の溝が徐々に広がりつつある状況を示しているようです。今後、この動きがどのように広がっていくのかが注目されます。

